NO:199　2026.10 発行

けんすけタイムズ

Kensuke Times

LINE 公式アカウント



愛知 13 区
碧南・刈谷・安城・知立・高浜
前衆議院議員

タイトル
再起動！

おおにし健介

1. 中道離党、無所属に

２月の選挙で、立憲民主党は公明党とともに中道改革連合を結成し戦いましたが、惨敗しました。改選前、143 名いた立憲の衆議院議員のうち再選されたのはわずか 21 名で、私も６期守ってきた議席を失いました。

私たちは、分断や対立を乗り越え、「中道政治」を目指しましたが、急ごしらえの新党は有権者の目には選挙目当ての野合にしか映らなかったことは、結果が示しており、その結果は真摯に受けとめなければなりません。

ただ、無所属ではなく中道から立候補したのは私自身の決断です。また、比例では中道は約１千万票もの支持をいただきました。

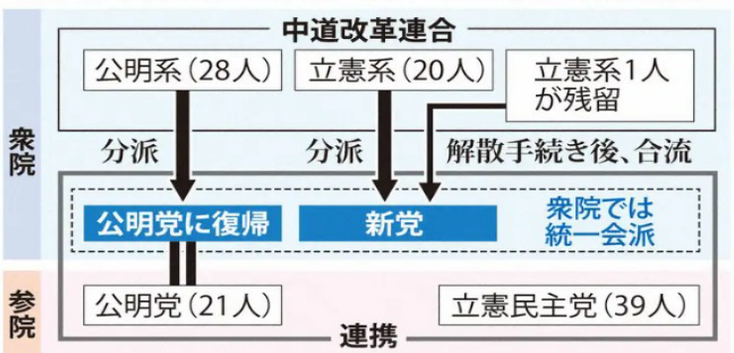
ですから、私も中道、立憲、公明の３党協議の行方を見守っていましたが、８月末に３党合流は白紙となり、中道は事実上解党することとなりました。

私も中道を正式に離党し無所属となります。真っさらな気持ちで出直したいと思います。

一方、野党の多弱化は目を覆うばかりです。国政の見通しが立たない中、首長選挙に転身する同僚も出てきています。

支えて下さる皆さまや多くの激励の声に耳を澄ませ、どうすれば皆さまのお役に立てるのか、自らの進むべき道を虚心坦懐に考え、今、自分にできることを地道にやっていきたいと思います。

中道改革連合、立憲民主党、公明党の今後の展望



【前衆議院議員　おおにし健介事務所】
〒446-0074　愛知県安城市井杭山町高見 8-7 2F
ＴＥＬ：0566-70-7122　ＦＡＸ：0566-74-2008
メール　office@oniken-web.jp

2. 予算カット発言に象徴される利権体質



築農水大臣による「自分を支持しないと予算を減らすぞ」という発言は、有権者に対する恫喝であり、支持した人も支持しなかった人も同じ税金を払っている有権者なのに支持したかどうかで予算差配をするのは言語道断です。

「地元に自民党議員がいないと予算がつかない」というのは、選挙の度に自民党が使ってきた常套句であり、築大臣は予算配分への影響はなかったと否定していますが、税金の利権化は自民党の体質と言えます。

その典型が沖縄振興予算であり、玉城デニー知事の時には沖縄振興予算は県が要望してきた 3000 億円台を 6 年連続で下回っていましたが、自民党が推した古謝さんが当選した途端に増額の方針を示されました。つまり、与党と対立関係にある知事を選んだ沖縄県の予算をカットするということを自民党はやってきたのです。

税の使い道を決めるのが政治です。ただ、それが私利私欲で左右されるようなことはあってはなりません。当然、そこには、高い説明責任が求められます。

築大臣の予算カット発言は、いわゆるスキャンダルではなく、税金の使い道を決めるという政治の根本に関わる問題なので、ゆるがせにしてはなりません。

築大臣を事実上更迭すれば、それで終わりという話ではなく、税金の利権化という体質そのものが問われていることを忘れてはなりせん。

自民一強の中、「政権交代」という言葉は虚しく響きます。現時点では有権者も政権交代など望んでいないと思います。

しかし、朝日新聞の最新の世論調査では、「自民党に対抗する政党が必要ですか？」という問いに 84%の人が「必要だ」と答えています。

私自身は、税金の使い道を大きく変えるためには、最終的には政権交代が必要だと考えています。限られた財源の中から、教育に税金を回すのか、防衛費にお金を回すのか、お金持ちや大企業からより多くの税金をいただくのか、それを変えられるのが政治です。

築氏の発言は、税金の使い道を決めるという政治の役割を改めて問い直すものだと思います。

プロフィール



▶昭和４６年生まれ、京大法卒

▶参議院事務局、在米大使館
馬淵澄夫代議士政策秘書

▶2009 年政権交代選挙で初当選
以来、連続６期当選するも、２月の総選挙にて惜敗

▶国会では、予算委員会、厚生労働委員会、党務では、選対委員長として活躍